

マタイによる福音書 25章 14ー30節

今日は、主イエスがお語り下さった譬え話に、心を集め、神様を讃美したいと思います。

タラントとは、ときどき聖書の中にでてまいります、お金の単位です。この言葉から、今日、わたしたちが使っていますタラントという言葉が生まれています。テレビなどで活躍する人たちのことを指すタラントです。元々は、聖書の時代のローマの貨幣でしたが、今日の主イエスの譬え話から、英語のタラント (talent) という言葉が生まれました。それは、預けられたもの、賜物、能力という意味を持つようになり、そこから、特別な賜物に恵まれた人、その才能を発揮して活躍する人をタラント、と言うようになりました。

このタラントですが、1タラントは6000デナリに相当する金額だったと言われています。一デナリは、労働者の一日の賃金にあたる額です。その6000倍ですから、約20年分の労賃ということになります。大の男が20年働いて得る金額、それが1タラントです。

ですから、5タラントと言えば、約100年分。2タラントは約40年分です。

それは、人が一生働いて得る金額と言えます。

ですから、主人が僕たちの「それぞれの能力に応じてタラントを与えた」ということは、私たち誰もが、神様から賜物を与えられていると理解して良いと思います。それは、私たちが持っているすべてのものです。「教育、知識、健康、体力、時間、社会的な立場、金銭、そして、信仰と愛」そのように数え上げられると思います。

つまり、それらの私たちが持っているすべての物は皆、神さまから委託された預かり物であるとも言えます。

そして、私たちは、私たちに与えられている委託物、賜物に対して管理する責任を感じ、それらをまちががなく、神さまの栄光と、隣人の祝福とのために用いることに心がけねばなりません。

譬え話は、5タラントの僕、2タラントの僕、1タラントの僕が、その後、どのようにそれを用いたか、そして、主人はその報告を聞いて、どのように報いたかを語っています。

5タラントと2タラントの者は、それぞれ、それを用いて商売をし、主人が帰って来たときには、それを2倍に増やしていました。

帰って来た主人は、この二人の僕にたいして、同じように、「良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」と誉めた。

しかし、1タラントの僕は、地を深く掘り、そこに隠しておいたため、主人は、その僕に対しては、「悪い怠惰な僕よ」と叱って、その1タラントを取り上げ、他の僕に与えておしまいになった。そして、この僕を追い出してしまった、というのであります。

ここで、私たちが注意しなくてはならないことがあります。

それは、委託された賜物、その大きさ、その大小は問題ではなかった、ということです。5タラントであろうと、2タラントであろうと、1タラントであろうと、たいした問題ではない。

問題は、いかに闊達（かったつ）に、その賜物を用いるかという一点にあるということです。

5タラントを預かった者は他に5タラントもうけましたし、2タラント預かった者は他に2タラントを儲けました。ともに最初の賜物を2倍にしましたが、主人はこの二人が所持する金額の大きさを比較したり、優劣をつけたりはしていません。僕たちの持っている金額を見ないで、優劣のない勤めぶりを喜び、どちらも同じ言葉で、彼らをいたわり、ねぎらっています。

旧約聖書のサムエル記というところに、一つの有名な言葉が記されています。それは、こういう言葉です。「人は外の顔かたちを見、主は心を見ろ。」（サムエル記上16：7）外部に現れた、人の目に映る成功の大きさ、あるいは、小ささ、高さや低さに目を留めないで、もっぱらその真実な心づくしを認めて、人を裁かれる。

神さまの眼差しは、そこに注がれています。

先ほど、私たちは、私たちに与えられている委託物、賜物に対して管理する責任を感じ、それらをまちがいなく、神さまの栄光と、隣人の祝福のために用いることに心がけねばならないと申しました。

責任は英語では responsibility という言葉ですが、これは「応答する」(response) という言葉と似ていると同時に、「信頼する」(trust, *Oxford English Dic.*) という意味も持っています。責任というものは、信頼関係の下で成り立つということでしょう。

たとえ話の中で主人は僕たちにお金を預けたのは、彼らを信頼していたからに違いありません。そして、主人は、僕たちが、主人の信頼に、責任をもって応答し、信頼に応えることを求めておられるのです。そして、5タラント儲けた僕も、2タラント儲けた僕も、主人から信頼されていることを深く受けとめていたに違いありません。

神様は、私たち一人一人が、神様から与えられている賜物を受け取り、それを生かして生きることを求めておられます。

他者の持っている賜物に関心が奪われることなく、また、神さまから預けられた賜物を自分の力で獲得しようとしたり、誇示したりすることをせず、自らに与えられているものに誠実に、着実に、用いて、主にお応えしていくことが必要です。

神様は、賜物の中で最も大きな賜物を私たちに与えてくださいました。それは、御子イエス・キリストです。私たちのために独り子イエス・キリストをお遣わし下さいました。ここに神様の深い愛が表されています。

私たちは、生涯を通して、この賜物に生きることができます。

生きる限り、イエス・キリストの救いの御業を仰ぎ、礼拝をささげ、神様を讃美することができるのです。